

- 北村山地域は「夏すいか日本一」の産地。異常気象や土壌病害虫により、品質・収量が不安定。**高品質安定生産と病害虫対策技術の確立が急務**。産地規模を維持するため、**若手リーダーの育成が課題**。
- このため農業技術普及課では、**関係機関と連携した防除対策・機械の実演会・実証圃設置による新技術の普及**。また、**青年組織活動を支援**。
- その結果、**高品質・安定生産が図られ、販売額が増加**。また、青年組織の会員個々の技術力も向上し、**若手リーダー層が活躍し、産地が活性化**。

具体的な成果

1 すいか販売額の増加

- 灌水処理による、高品質・安定生産技術が普及し、販売額が増加、農家の収益が向上(H25→H27)

	H25	H26	H27
1戸当たり平均出荷 数量(JA系)(t)	2 9	3 3	3 4
全国平均価格比(%)	107	112	120



灌水チューブ設置実演会



病害虫防除の現地研修

2 IPMの実践とICTを活用した発生予察を実証

- 産地全体で病害虫の発生しにくい環境づくりや化学農薬低減技術を活用した防除を実践。また、自動気象観測システムによる炭そ病の発生予察を実証。

3 青年組織の活動活性化

- これまでの技術習得研修や仲間づくりの活動により、個々の栽培技術が向上し、すいか部門は安定した経営。「全国すいかヤングサミット」や「すいかコンテスト」を主体的に開催し、地域の活性化に繋がる活動が増加。

普及指導員の活動

1 灌水チューブ普及

- 講習会や現地巡回等で、灌水の重要性を周知。
園芸試験場と連携し、実証圃を設置するとともに、灌水チューブの機械実演会を開催し、普及拡大を推進。

2 病害虫の防止対策

- 病害虫防除所と連携し、土壌病害虫の被害実態調査を実施。また、病害虫の発生予察を実施するとともに、IPMの実証圃を設置し、化学農薬に頼らない防除法を検討。

3 青年組織の活動支援

- 組織を対象に、講習会や研修会を開催し、会員個々の技術を向上。全国ヤングサミットやすいかコンテスト開催を支援。個々の栽培状況や経営内容の実態把握を行い、生産力、経営力向上のための支援。

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門技術を持ち、先進農業者、試験場や病害虫防除所等と連携し、**各種実証圃を設置し、調査データを示しながら、新技術を普及することが可能**。
- ・ 日頃から現場に足を運び、**青年農業者の相談役として信頼関係を構築、青年組織を支援。相互研さんを働きかけ、産地活性化を推進**。

確実に儲ける「尾花沢すいか」

活動期間：平成25～27年度

1. 取組の背景

(1) 気象変動等に対応できる高品質安定生産

管内のすいかは「夏すいか日本一」のブランド産地として位置付けられており、地域経済でも大きなウエートを占めている。

しかし、近年、頻発する異常気象の発生や土壌病害虫の拡大が影響し、生産量、価格の年次変動が大きい状況にある。そこで、高品質安定生産と病害虫対策技術の確立に取り組んだ。

(2) 品質を維持した省力生産と付加価値品種の導入による収益の安定

これまで、戸別の規模拡大により、栽培面積は維持されてきた。しかし、品質を重視（ブランド維持）したこれまでの栽培方式では労力がかかり、高齢化や人手不足の影響もあり、産地基盤の弱体化が懸念されている。

そこで、省力化と収益の安定化を図るため、品質を維持した省力生産技術の実証と付加価値品種（種なし、黒皮）の比較実証を実施した。

(3) 若手リーダーの育成による将来を見据えた基盤の強化

生産者の高齢化は進展しているものの、青年組織の「尾^{おらだ}楽田の会」（会員36名）が会員相互の技術研鑽や消費者との交流、すいかイベントの開催等、自主的に活発な活動を行っている。そこで、「尾^{おらだ}楽田の会」を核とした若手リーダー育成による将来を見据えた生産基盤の強化を図った。

2. 活動内容

(1) 灌水チューブの普及

講習会や現地巡回等で、灌水の重要性について周知した。

園芸試験場と連携し、実証圃を設置するとともに、灌水チューブ設置にあたり機械実演会を開催し、省力技術の普及拡大を推進した。

(2) 病害虫の防止対策

講習会等で土壌病害虫の生態、防除対策を周知した。

病害虫防除所と連携し、土壌病害虫の被害実態調査を実施した。また、病害虫の発生予察を実施するとともにIPMの実証圃を設置し、化学農薬に頼らない防除法を検討した。

(3) 省力生産技術の検討

園芸試験場の研究成果をもとに、地域に適した省力・多収栽培方式を実証、検討した。

(4) 付加価値品種の実証

「種なし」と「黒皮」品種の実証圃を設置し、品種比較を実施した。

(5) 青年組織の活動支援

尾^{おらだ}楽田の会を対象に、講習会や研修会を実施し、会員個々の技術向

上を図った。

全国ヤングサミットやすいかコンテスト開催を支援した。

さらに、個々の栽培状況や経営内容の実態把握を行い、生産力、経営力向上のための支援を行った。



灌水チューブ設置実演会



病害虫防除の現地研修会

3. 具体的な成果

(1) 灌水処理による、高品質・安定生産技術の普及

園芸試験場と連携し、灌水処理による高品質・安定生産技術の普及拡大を図った。その結果、平成27年度は、定植から高温・少雨が続く厳しい気象で経過したが、計画通りの生産量を確保し、品質も高く市場から最高の評価を受けた。

	H 2 5	H 2 6	H 2 7
1戸当たり平均出荷数量 (JA系) (t)	2 9	3 3	3 4
全国平均価格比 (%)	1 0 7	1 1 2	1 2 0

(2) I P Mの実践と I C Tを活用した発生予察を実証

産地全体で病害虫の発生しにくい環境づくりや化学農薬低減技術を活用した防除技術を実践した。

自動気象観測システムによる炭素病の発生予察を実証した。

(3) 省力・多収生産技術の簡易マニュアル作成

今回検討した省力・多収生産技術は、天候等に左右されやすい欠点が見られたため、今後再検討し、簡易マニュアルを完成させる。

(4) 付加価値品種の選定

品種の絞り込みを行い、有望品種を選定した。

(5) 青年組織の活動活性化

これまでの技術習得研修や仲間づくりの活動により、個々の栽培技術が向上し、すいか部門は安定した経営となった。

また、「全国すいかヤングサミット」や「すいかコンテト」を主体的に開催し、地域の活性化に繋がる活動が増加した。

4. 農家等からの評価・コメント（尾楽田の会）

会の目的の一つに、先輩が築いた、夏すいか日本一の「尾花沢すいか」を守り、発展させ、後世に引き継ぐ役目があります。今後も研修会や先進地研修をさらに充実させ、より一層「ん～まいすいか」づくりを目指します。また、「日本一おっきい！ん～まい！尾花沢すいかコンテスト」等を開催し、地域活性化、PR活動に取り組んでいく予定ですので、関係機関の方々からは、引続き、ご支援をお願いします。



先進地研修会

5. 普及指導員のコメント（村山総合支庁北村山農業技術普及課 主任専門普及指導員 齋藤克哉）

夏すいか日本一の産地ブランドの維持・発展を、生産者の方々、関係機関の方々と一体となって取り組んできました。今後とも現場の声を大切に栽培技術面の課題解決とともに、さらなる産地強化及び担い手の育成に力を注いでいきたいと思います。

6. 現状・今後の展開等

（1）どんな条件でも、高品質・安定生産の継続

高品質・安定生産に向け、灌水チューブによる灌水実施を推進する。また、土壌害虫の地域蔓延防止対策の徹底を図っていく。

栽培管理等の情報は、FAXやSNS等を活用して、生産者に迅速に伝達する体制を構築する。

（2）省力生産技術の確立

高齢化、人手不足等に対応した省力・多収生産技術は、改善点を検討し、地域に適した生産方式の定着をすすめる。

（3）次世代を担う後継者の育成

青年組織の活性化を継続支援し、新規就農者の確保、定着を図る。